

平成 27 年度 国立中央青少年交流の家

若者たちが企画する

富士のさと わくわくキャンプ ①家族編

平成 27 年 9 月 11 日 (金) ~ 9 月 13 日 (日) 2泊3日

○目的

ボランティア養成研修の参加者等が身につけた内容を家族対象キャンプで実践しスキルの向上を図る。

○本事業の仕組み

当所が養成したボランティアを中心に家族対象のプログラムを企画立案し、当日の運営をする。



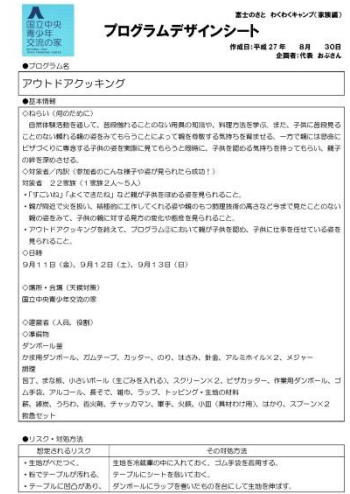
【運営に関わったスタッフと参加者】

○キャンプの企画立案

立候補のあった 26 名のボランティアと実習生を企画メンバーとし、企画立案を進めた。

各自に担当を割り振り、お互いにメール等で情報共有しながら、以下のことを行った。

- ・プログラムの選定、構成
- ・プログラムデザインシートの作成
- ※手順や安全管理について記載されたもの
- ・全体進行表の作成
- ・実地踏査の実施 等



【広報チラシと企画メンバーが作成した企画書】

○キャンプ当日の運営

当日の運営は、実習生 1 名を新しく受入れ、総勢 27 名（ボランティア 20 名，社会教育実習生等 7 名）が担った。スタッフは前日から宿泊し準備や試作，最終的な打ち合わせをして参加者を出迎えた。今回の参加者は 23 家族 81 名であった。

初日【9月12日（土）】



《はじめの会》
スタッフもちょっと緊張!?



《交流ゲーム》
身体を動かして、楽しいね!



《課題解決ウォークラリー》
あっ、問題があったよ!



《手作りピザづくり》

まさか段ボールで焼くとは！

2日目 [9月13日(日)]



《焼き上がり》

ピザはよく焼けたかな？



《夜の交流タイム》

スタッフのお兄さん遊んで！



《牛乳パックでホットドッグ》

こんなに簡単にできちゃう！



《ありがとうの木クラフト》

日頃の感謝をクラフトに。



《感想発表》

たくさん想いを込めました。

《参加した家族の声》

- ・ 小さな子供が話を聞こうとして実行し、協力する姿がありましたので、大人の私でも子供のよう安心してついていかせていただきました。
- ・ 今年で終わることなく2回、3回と続けていけばものすごいイベントになっていくと思います。来年も参加します！！
- ・ スタッフの方々も明るくやさしくて、子供も安心してお話が出来ます。普段交流のない年代の方と触れ合えて、子供にはとても嬉しい事だと思います。



○キャンプを終えて

《企画メンバーの感想》

- ・ 今回、初挑戦でしたが、皆で話し合い、準備し本番を迎え、他のチームの協力も得ながら、無事プログラムを終えられたときに、参加者やスタッフの笑顔を見られ、参加してよかったと思いました。
- ・ 多人数でも情報共有をしっかりとっておけば、スムーズに動くことができるので、伝達の大切さを感じた。



《成果と課題》

ボランティアが自分たちのプログラムに集中して取り組む姿が見られた一方で、集中するあまり参加者との関わり合いが少なくなってしまうことがあった。しかし、そのバランスの難しさをボランティア自身が肌で感じられたことで、次回への意識が高まったことは成果と言える。課題としてはさらにメンバーの参画意欲を高めるために、各セクションの担当人数等の割り振りについて検討する必要がある。